施策
1

豊かな人間性と生きる力を 育む教育の推進

基本方針

これからの未来を拓く子どもたちが、健やかで自ら学ぼうとする意欲を高め、豊かな人間性と確かな学力、たくましく「生きる力」を身につけることができるまちをめざします。

学校や家庭との連携により、子どもたちが「よしやってみよう！」という学ぶ意欲を引き出し「学力の向上」に努めます。

一人ひとりの子どもたちのニーズを大切に、特別支援教育の充実や、いじめや不登校などへ対応できる体制づくりを推進します。

また、子どもたちが犯罪や事故などに遭わないための体制の強化に努めます。

現状と課題

少子化の進展や地域のつながりが希薄になり、家庭教育における子どもたちの「生きる力」を育むための取り組みや、登下校時などにおける安全確保が課題となっています。また、学習面においては、基礎学力を新潟県の平均値まで引き上げるため、学校と保護者が一体になり子どもたちの学ぶ意欲を引き出すことが必要です。

- 登校したくてもできない、また登校しても普通に教室で授業を受けることが難しい等の問題を抱えた子どもたちのために、「楽しく学び」「楽しく遊ぶ」ことができる体制づくりが必要です。
- 景気の低迷等の影響で、高校や大学などに進学したくてもできない子どもが増えてきているので、経済的な支援が必要とされています。
- 「話す」「聞く」「話し合う」の力を確実に育成するなど、人間関係形成の能力の向上を図る教育が求められています。
- 国際化社会の進展に伴い、子どもたちが外国人と接する機会が年々増えてきているので、お互いの文化や風習に対する理解を深める教育が必要です。
- 学校内や通学路上で、子どもたちを標的にした悪質な犯罪が増加しているのので、これらを未然に防ぐための体制が必要です。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
基礎学力の向上	県標準学力検査の県平均との比較 (県平均を100とする)	(H17) 小学校：95.8% 中学校：91.6%	小学校：100.0% 中学校：100.0%
不登校児童・生徒の数	児童・生徒1,000人あたりの不登校児童・生徒の数	小学校：3人 中学校：19人	小学校：0人 中学校：0人
不審者の発生件数	学校及び警察から市に通報があった件数	36件	0件

今後の取り組み

1 誰でも楽しく学び、わかる教育の推進

基本的な生活習慣の定着や確かな学力の向上をめざし、全ての学校でわかる授業、楽しい授業、学ぶ意欲を引き出す授業を実現するとともに、子どもたちの個性や特性をいかす教育を推進します。

そのため、一人ひとりのニーズに応じた教職員研修の充実を図り、資質や指導力の向上に努めます。また、各学校や地域社会が取り組む歴史や伝統・文化を学び、地域を愛し、自然とのふれあいなどを通じた自然体験学習など、地域の特性を活かした特色ある教育を支援します。さらに、学ぶ意欲の基盤となる子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図るため、「早寝、早起きや規則正しい食事」などの正しい生活リズムを身につけるよう、学校教育や家庭における食育の充実を図ります。

- ・指導主事学校訪問事業
- ・学力向上形成事業
- ・学校評議員制度
- ・総合学習支援事業
- ・食育推進事業

2 いじめや不登校の解消

子どもたちが、楽しい学校生活を送るため、一人ひとりが抱えている問題を早期に解決できるよう、問題を抱える子どもたちに対する各学校での相談体制を確立します。

また、教育委員会が中心になり青少年育成センターなどの関係機関と連携し、情報を共有することで全体的な支援体制の構築に努めます。

- ・中1ギャップ解消事業
- ・心の教室相談事業
- ・適応指導教室事業
- ・自立支援事業

3 学習環境の充実

健康で楽しい学校生活が送れるよう、健診体制の充実や食育の推進を図るとともに、進んで運動に親しむ習慣をつけ、体力の向上に努めます。

また、一人ひとりの子どもたちの多様なニーズに応え、誰もが分けへだての無い教育を受けることができるように、学級の状況等に応じて教育補助員^{*}を配置し特別支援学級^{*}を充実します。

- ・特別支援教育推進事業
- ・学校保健事業

4 国語力の強化と国際理解力教育の推進

国語教育を中核に据えた学校教育の推進が重要となっていることから、国語力の中核である「考える力」「感じる力」「想像する力」「表す力」の4つの能力を伸ばすことを重点とした基礎学力の向上を図ります。

また、国際社会の一員としてこれからの世界にはばたいていくために、外国人指導助手（ALT）を中心とした国際理解力教育を進め、生きた英語教育を実施することでコミュニケーション能力の向上を図ります。

- ・外国青年招致事業
- ・小学校英語活動等国際理解活動推進モデル事業
- ・学校図書活用推進事業

5 高等教育への就学支援

経済上の理由により高校や大学等に進学することに苦慮している生徒・学生への奨学金の貸付を行い、教育の機会均等を図り社会の健全な発展に尽くす有能な人材の育成を推進します。

- ・奨学金貸付事業

6 安全体制の確立

災害時に迅速に対応できるための避難訓練や交通事故に遭わないための交通安全教室などを実施するとともに、学校と警察が連携し、校内や登下校時における犯罪や事故などを未然に防ぐための指導や訓練を実施します。

特に、通学路における犯罪・事故防止対策として、通学路の安全点検と、地域の各団体やボランティアによる巡回パトロール等により犯罪の防止に努めます。

- ・巡回パトロール事業

市民等の役割及び期待

- ・子どもたちが家庭で学習しようという環境を作り出すことが期待されます。
- ・保護者の学校行事への積極的な参画が期待されます。
- ・子どもたちのあり方、生き方を含め家庭における適正なしつけ教育が期待されます。

序
論基本
構想基本
計画いき
いきの
泉水安心
の
泉水ふれ
あいの
泉水活気
の
泉水快適
の
泉水計画
の
推進付属
資料

施策
2

教育環境の充実

基本方針

子どもたちの健やかな成長と豊かな人間性を育み、多様化する教育ニーズに対応するため、安全・安心で快適な教育ができる環境づくりをめざします。

子どもたちが、どこの園、学校にいても同じ環境で教育が受けられることができるように、備品などの計画的な整備を推進します。

また、安全で安心な園、学校生活を送るために校舎等の安全性を確保するとともに、子どもたちが食の大切さや楽しみを実感できる環境の整備を進めます。

現状と課題

近年、子どもたちの学ぶことへの意欲や感心などの減退、体力の低下などの傾向が指摘されています。子どもたちの「生きる力」を育むためにも充実した環境づくりを進める必要があります。

- 一部の小学校で文部科学省の示す学校図書充足率に達成していないため、計画的な整備を図る必要があります。
- 情報化社会に対応した情報活用能力を育成するため、小中学校のコンピュータ教室などの教育環境の整備を進める必要があります。
- 新耐震基準以前の学校施設については、計画的に耐震診断や大規模改造工事等を実施してきましたが、引き続き耐震性能の確認と耐震性が劣る施設について耐震化を進める必要があります。
- 子どもたちの食に関する健全育成を図るため、各小中学校の給食施設の整備を進める必要があります。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
小学校の教育用コンピュータの整備率	小学校パソコン教室での児童1人あたりの充足率	36.1%	100.0%
文科省基準を満たしている小学校図書館の割合	—	72.7%	100.0%
学校施設の耐震化率	耐震診断・改修の実施率	69.9%	83.0%
給食施設の整備率	小中学校の自校給食施設整備率	56.3%	81.3%

今後の取り組み

1 教材教具の充実

幼稚園・学校の図書や標本などの教材や、運動用具や視聴覚機器などの教具の充実を図ることにより、子どもたちが楽しく活動できる学習の場の提供を推進します。

特に、子どもたちの健全な教養を育成するための図書については、市立図書館との連携を図るとともに、文部科学省が定める図書標準（図書の充足率）の達成に努めます。

・学校図書整備事業

2 教育用コンピュータ環境の充実

小中学校の総合的な学習の時間などにおいて、コンピュータやインターネットを効果的に活用した情報教育に対応できる環境整備を推進します。

文部科学省の整備基準を満たすための計画的な整備や、インターネット接続の高速化を進めます。

また、情報セキュリティの向上や、教職員のコンピュータに関する知識及びパソコンを活用した指導力の向上に努めます。

・教育用コンピュータ整備事業

3 学校施設の耐震化、改修の推進

幼稚園・学校施設は子どもたちが一日の大半を過ごす学習の場であることから、安心して学習することができる校舎等の整備を進めます。老朽施設の改築工事、大規模改造工事、耐震補強工事等を計画的に進め、安心して学習することができる教育環境の整備を推進します。

また、災害時における避難所としての役割を考慮した施設整備を図ります。

・校舎改築事業
・大規模改造事業
・耐震補強事業

4 自校式給食施設の整備の推進

安全安心で温かい給食を提供するために、給食施設を持たない学校への整備を推進します。また、既に設置してある給食施設については、改修等の際に、より衛生的な環境を確保することのできるドライシステム化^{*}の整備を進めます。

自校での給食を活用し、食に関する正しい知識を身につけることのできる食育を進めます。

・給食施設整備事業

市民等の役割及び期待

- ・学校施設的环境美化活動に積極的に参加することが期待されます。
- ・整備された学校等の施設を大切に使用するとともに、積極的に活用することが期待されます。

序
論

基本構想

基本計画

いきいきの泉水

安心の泉水

ふれあいの泉水

活気の泉水

快適の泉水

計画の推進

付属資料

施策
3

生涯学習の充実

基本方針

いつでも、どこでも、誰でも学べ、さらに学んだことを教えることで、学ぶ喜びと学びあう喜びを実感し、いっきいきと暮らせるまちをめざします。

学習できる場の充実や情報提供等に努め、学習意欲と多様な価値観に対応した学習ができる環境づくりを推進します。

地域での特色を活かした学習ができる体制の整備を推進します。

また、次世代を担う子どもたちを、地域社会が協力して育むための取り組みを進めます。

現状と課題

高齢化や高度情報化など社会環境の大きな変化により、生きがいや豊かな心を求めて生涯学習に対するニーズは多様化しています。誰もが気軽に参加できる学習機会の充実や市民が自発的にグループやサークル活動など、生涯学習に取り組む環境づくりが求められています。

- 市民の主体的な活動を支援するためには、市民ニーズに応じた学習機会や情報の提供、さらに計画的な学習施設の整備などが必要です。同時に、ここ数年横ばい状態となっている民間指導者（達人バンク[※]）の登録者の活性化と新規開拓等が必要です。
- 子どもたちの放課後活動や週末活動を充実させるため、地域住民の協力を得ながら子どもたちの居場所づくりを進める必要があります。
- 地域住民の学習意欲を引き出すため、市民への情報の提供や小学校を活用した公民館活動を行うなど、地域活動拠点の整備・充実が必要です。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
自発的な学習に取り組んだり、趣味の会やサークル活動に参加している市民の割合	市民意識調査のアンケート項目	24.4%	50.0%
達人バンクの登録者数	—	個人 117人 団体 35団体	個人 160人 団体 40団体
社会教育関係団体登録数	—	213団体	250団体

今後の取り組み

1 学習機会の充実

誰でも気軽に「学ぶ」ことができると同時に、「教わる」だけでなく、学んだことを「教える」ことができるなど、自分の能力を社会の中で活かせるような、さまざまな分野での学習機会の拡充を進めます。また、市のホームページ等の活用を図り、リアルタイムに各種講座や講演会等の情報提供に努めます。

さらに、市民意識調査を実施し、多様な学習ニーズや課題の把握に努め、よりの確な学習機会の提供を推進します。

- ・市民大学講座事業
- ・高齢者学級事業
- ・市民意識調査事業

2 民間指導者の育成・活用の推進

「達人バンク」制度を充実させるため、登録者のスキルアップ^{*}や活動支援、団塊の世代などをターゲットにした指導者の掘り起こしなどを進め、市民自らが自主講座等を開設することができるよう、指導者の育成と支援を推進します。

また、社会教育関係団体の活動支援を進め、行政に頼らなくても自主的に活動することができるグループやサークルなどの育成に努めます。

- ・ごせん生き生き楽習達人バンク推進事業
- ・きなせや楽習大学事業
- ・生涯学習フェスティバル事業

3 子どもの居場所づくり

地域住民の協力を得ながら、地域社会の中で子どもたちが安全・安心に、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを進めるため、地域教育力を活かした子どもの居場所づくり^{*}を推進します。

退職教員等による学習指導や住民との交流活動を通じた「寺子屋」事業^{*}を全小学校区への拡大や、子どもたちがさまざまな体験活動を通じ、自ら考え、行動できる豊かな感性や社会性を養う学習機会の提供に努めます。

- ・寺子屋事業
- ・週末活動等支援事業
- ・生き生き通学合宿事業
- ・中高生ボランティアスクール事業

4 公民館の有効活用

地域に根ざした生涯学習を推進するため、地域の財産である小学校の施設を活用した公民館活動の充実を図るとともに、さらに小学校区単位の地区公民館の整備を図り、気軽に参加できる学習機会の提供と地域性を活かした活動の推進に努めます。

- ・役職員研修事業
- ・地区公民館拡充事業

5 生涯学習関連施設の計画的な整備

施設のバリアフリー化を進めるなど、利用者が安全に安心して利用できる生涯学習関連施設の計画的な改修を実施します。

また、多様化する市民の学習ニーズに対応するため、生涯学習と芸術文化活動の複合的な拠点施設である（仮称）生涯学習センターの整備を検討します。計画にあたっては、効率的な運営、利用予測や施設の活用方策などを総合的・長期的な視点で検討し、市民参画による検討委員会を設置するなど市民との協働による施設づくりに努めます。

- ・総合会館改修事業
- ・（仮称）生涯学習センター建設推進事業

市民等の役割及び期待

- ・学習できる場や地域活動へ意欲的に参加することが期待されます。
- ・自らの学習成果を、積極的に地域に還元することが期待されます。

序
論

基本構想

基本計画

いきいきの泉水

安心の泉水

ふれあいの泉水

活気の泉水

快適の泉水

計画の推進

付属資料

施策
4

生涯スポーツの推進

基本方針

子どもからお年寄りまで、生涯を通じて健康で活力に満ちた生活を送ることは、みんなの願いです。いつでも、どこでも、誰でもスポーツやレクリエーション活動に親しめ、元気に心豊かで生きがいのある生活を送ることができるまちをめざします。

誰もが気軽に参加できる健康維持や体力増進の機会を提供するとともに、施設環境の整備や適切な助言・指導ができるスポーツ指導者の育成に努めます。

競技スポーツを振興するため、2009トキめき新潟国体や各種大会の招致や開催に努めます。

現状と課題

現代人の体力・運動能力の低下や生活習慣病の増加がクローズアップされ、「生きる力の源」、「健康維持・増進」のためのスポーツ活動に対する市民のニーズが高まっています。

- スポーツ指導者の育成や施設の充実など、受入体制の整備を行い、より多くの市民がスポーツに親しむ機会を提供することが必要です。
- 国体の開催を契機に国内トップレベルの大会など、幅広くスポーツ大会を招致・開催し、よりハイレベルな試合等を間近に体験できる機会の提供が必要です。
- 老朽化したスポーツ施設が多いことから、安全性や利便性を考慮した計画的な改修や改築が必要です。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
スポーツ（運動）を週1回以上している市民の割合	市民意識調査のアンケート項目	23.2%	35.0%
体力づくり教室参加者数	—	8,118人	9,700人
各種市内大会参加者数	—	34,748人	38,000人
市民スポーツクラブ加入者数	—	6,685人	7,900人

今後の取り組み

1 生涯スポーツ活動の推進

子どもの体力・運動能力低下を防止するため、ゲームやレクリエーション、スポーツを通じて体力づくりの機会を提供します。また、青・壮年期を通じた世代の生活習慣病を予防し、主体的に健康維持・管理できる運動機会を提供します。

さらに、お年寄りの介護予防・健康増進のための地域出前講座や、体力保持の場を提供します。

- ・健康増進・体力づくり事業
- ・レク・フェスタ事業
- ・市民健康ウォーク事業

2 競技スポーツの振興

スポーツ活動への関心を高め、競技力の維持・向上を図るため、各種スポーツ大会を積極的に開催します。

また、競技水準向上のため、指導者講習会を開催するなど、指導体制の強化を図り、ジュニア選手の育成強化に努めるとともに、上位大会出場のための奨励費を支給するなどの支援を行います。

- ・五泉市陸上選手権大会事業
- ・スポーツ活動等大会出場支援事業
- ・五泉市ジュニア選手育成強化事業

3 スポーツ指導者及び団体等の育成強化の推進

体育指導委員など指導者への研修会等を実施し、スポーツ指導者の資質向上を図ります。体育協会等の団体及びスポーツクラブ活動団体などとの連携を強化し、市民自らが主体的にスポーツを楽しむことができる環境を整備します。

また、市民一人ひとりのライフステージにおいて、継続的にスポーツに親しむ場として、総合型地域スポーツクラブ*の設立を検討します。

- ・体育指導委員育成事業
- ・体育団体育成強化事業

4 スポーツ大会等の招致と開催

2009トキメキ新潟国体の開催に向け、大会の会場となる総合会館及び市営野球場の施設整備を行います。

また、さまざまな競技にも対応できる用具等の充実を図ることで、スポーツ団体等と連携し、よりハイレベルなスポーツ大会等を招致・開催します。

- ・トキメキ国民体育大会開催事業
- ・総合会館改修事業
- ・市営野球場改修事業

5 スポーツ等施設整備の推進

既存のスポーツ施設を最大限に有効活用するため、さまざまなニーズに対応できるよう計画的な施設の改修や附属設備等の整備・充実に努めます。

また、スポーツ活動の拠点の一つとなる（仮称）村松体育館の建設を進めます。

計画にあたっては、村松公園周辺に点在している既存の屋内・屋外スポーツ施設及び新設の（仮称）村松体育館を有効に活用するため、周辺一体を「総合スポーツゾーン」として整備を進めます。

- ・（仮称）村松体育館建設事業
- ・総合会館改修事業

市民等の役割及び期待

- ・一人ひとりが「健康維持・増進」の大切さに気づき、自らがスポーツに親しみ、自分にあったスポーツを楽しむことが期待されます。
- ・地域の人とひととのつながり・連携をもとに、自主運営スポーツクラブ等を結成し、積極的に参画することが期待されます。
- ・スポーツ指導者やボランティアとして、自らの能力や学習成果等を積極的に地域に還元し、生涯スポーツ振興の担い手となることが期待されます。
- ・施設整備における建設検討委員会などでの市民要望の発信など市民参画が期待されます。

序
論基本構
想基本計
画いきい
きの泉
水安心の
泉水ふれあ
いの泉
水活気
の泉
水快適
の泉
水計画
の推
進付属
資料

施策
5

芸術文化の推進

基本方針

市民が自主的かつ創造的な芸術文化活動を行なう中で、心の豊かさと潤いが実感できるまちをめざします。

市民自らが主体的に芸術文化活動を行えるよう、活動の場の充実に努めるとともに、各種芸術文化団体や指導者の育成を推進します。

芸術文化活動への多様なニーズに応えることのできる施設等の整備を図るとともに、芸術文化に対する関心を高めるため、優れた芸術文化にふれる機会の充実に進めます。

現状と課題

心の豊かさと潤いのある生活を求め、芸術文化への学習意欲や学習成果発表の場への参加は年々増加しています。民間団体による芸術文化活動を支援するなど、市民が芸術文化活動に親しむ環境づくりの充実が求められています。

- 市民や芸術文化団体、サークル活動団体などと連携し、市民が主体的に活動できる場の充実が必要です。
- 芸術文化の振興を図るため、芸術文化団体、サークルを支える民間指導者の発掘や育成が課題となっています。
- 団塊の世代が退職を迎え、芸術文化への学習ニーズは高まってくることから、文化施設の充実に計画的に進める必要があります。
- 心の豊かさや素直に感動できる心を養うため、優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供が必要です。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
文化事業入場者数	市が実施する文化事業の年間入場者数	19,220人	22,000人
1年間にコンサートや演劇などの文化・芸術鑑賞をしたことがある市民の割合	市民意識調査のアンケート項目	40.5%	60.0%
達人バンクの登録者数	達人バンクの登録者数	個人 117人 団体 35団体	個人 160人 団体 40団体

今後の取り組み

1 芸術文化活動の推進

美術教室や書道教室などの各種教室の開催や、市民の芸術文化活動の発表の場である市美術展覧会や芸能祭、音楽祭など、より多くの市民が発表できる機会の充実に努め、市民の主体的・創造的な芸術文化活動の活性化を促進します。

市民が自主的に文化事業を行えるよう、芸術文化団体や生涯学習の「達人バンク」等と連携し、民間指導者の発掘や、育成をするための研修等を推進します。また、自主的な文化活動を行う環境づくりを行います。

さらに、多様化する芸術文化活動の専門性に対応するため、職員研修を行うなどの人材育成に努めます。

- ・市美術展覧会事業
- ・音楽祭・芸能祭開催事業
- ・ごせん生き生き楽習達人バンク育成事業
- ・きなせや楽習大学事業

2 芸術文化団体の育成支援

市民自らが主体的に文化活動を行うため、団体育成や指導者の育成を進めます。

芸術文化活動の核となる文化協会の活動を支援することで、活動基盤の整備を促進します。また、文化協会と連携・協力して、研修会を行い指導者のレベル向上と育成を図ります。

さらに、自主的な芸術文化活動を展開するなど、芸術文化の振興を図ります。

- ・芸術文化指導者育成事業

3 文化施設の充実

市民の芸術文化活動の場として、施設の維持管理に努めるとともに、バリアフリーに対応した計画的な改修を推進します。

また、多様化する芸術文化の学習ニーズに対応するため、生涯学習と芸術文化活動の複合的な拠点施設である（仮称）生涯学習センターの整備を検討します。計画にあたっては、効率的な運営、利用予測や施設の活用方策などを総合的・長期的な視点で検討し、市民参画による検討委員会を設置するなど市民との協働による施設づくりに努めます。

- ・（仮称）生涯学習センター建設推進事業
- ・文化施設維持・改修事業

4 芸術文化の鑑賞機会の充実

市民の芸術文化に対する関心を高め、生涯を通じて多様な芸術文化に出会い、心の豊かさや潤いを実感できる市民生活を実現するため、芸術文化団体と連携を図り、優れた音楽、美術、演劇などにふれる機会の充実に努めます。

- ・展覧会開催事業
- ・コンサート開催事業
- ・舞台芸術鑑賞事業

市民等の役割及び期待

- ・芸術文化活動に意欲的に参加することが期待されます。
- ・自らの能力や特技を社会の中で発揮し、還元することが期待されます。

序
論

基本構想

基本計画

いきいきの泉水

安心の泉水

ふれあいの泉水

活気の泉水

快適の泉水

計画の推進

付属資料

施策
6

図書館に親しむ環境整備の推進

基本方針

子どもからお年寄りまで、誰もが気軽に図書館を利用でき、利用者の要望に応えられる図書館資料の充実と情報提供ができるまちをめざします。

図書や各種資料の充実を図り、調査研究（レファレンス[※]）機能の強化、子どもの読書環境の整備等を進めます。

また、村松分館や本館の施設整備を図り、快適な利用環境を整えます。

現状と課題

図書以外の媒体への関心の高まりや、情報化の進展による情報の収集方法の多様化等により、図書館の利用者が伸び悩んでいます。子どもの読書離れも進んでいることから、図書館の果たす役割を見直すことが重要となっています。

- 市民ニーズに対応した魅力ある蔵書整備や公共図書館のネットワークを活用した資料の提供などの充実を図る必要があります。
- 図書館資料を利用した調査・研究が増えてきていることから、図書館資料を使ったサービスの提供（レファレンス）の充実を図る必要があります。
- 子どもたちの読書意欲の向上を進めるため、読み聞かせボランティアの育成・強化が求められています。
- 合併に伴い村松地区の図書館機能の拡充や本館機能の充実など、利便性の向上が求められています。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
市民1人あたりの図書貸出冊数	—	2.8冊	4.0冊
市民1人あたりの蔵書数	—	2.2冊	3.5冊
図書カード登録率	総人口に対して個人登録をした率	17.2%	30.0%
子ども1人あたりの図書貸出冊数	子どもとは12歳までをさす	8.7冊	10.0冊

今後の取り組み

1 図書館資料の充実

市民意識の多様化に対応した資料の整備が求められていることから、アンケート調査などによる利用者の意向を反映した蔵書の整備を進めます。
また、予約・リクエストサービスに迅速に対応するため、全国の公共図書館とのネットワークの利活用を図るとともに、郷土・行政資料の収集・保存活動の取り組みを強化します。

・蔵書整備事業

2 調査研究（レファレンス）機能の強化

調査・研究などに対して、図書館資料等を活用して援助する（レファレンス）機能を強化するため、職員研修を進めながら調査研究機能の向上を図ります。
また、サービス提供の利用促進を図るため、市民へのPR活動に努めます。

・図書館職員研修事業

3 子どもの読書活動の推進

未来を生きる子どもたちの、心の糧になるような本の選書に心がけ、成長過程や発達段階に応じた本の橋渡しができるように努めます。
また、絵本の読み聞かせやお話タイムなどの機会を充実させ、家庭や学校図書館との連携を深め、幼児・児童・生徒がどこにいても「読書」に関心が向くような環境づくりを進めます。

・おはなしタイム事業
・出前おはなしタイム事業
・絵本の読み聞かせ講座

4 施設整備の推進

村松公民館分室の施設を改修・整備し、村松分館を移転します。運営にあたっては、蔵書の充実や利用しやすい環境整備に努めます。
また、分館機能の向上を図るため本館と分館の役割分担を明確にし、効率的な運営を図ります。
本館の施設については、施設や駐車場の整備を進め、利便性の向上に努めます。

・村松分館整備事業
・書庫整備事業
・本館駐車場整備事業

市民等の役割及び期待

- ・図書館を有効に活用することが期待されます。
- ・子どもが本に親しめるお話タイムなどのボランティア活動に積極的に参加することが期待されます。
- ・地域資料や郷土に関する資料・情報を図書館に提供することが期待されます。

序
論

基本構想

基本計画

いきいきの
泉水

安心の
泉水

ふれあいの
泉水

活気の
泉水

快適の
泉水

計画の
推進

付属資料

施策 7

文化財の保護と活用の推進

基本方針

郷土の自然や歴史、文化財は後世に伝え残さなければならない地域の財産です。これらの財産を大切に保存し、活用したまちをめざします。

地域に残る年中行事や伝統芸能を後世に伝えるため、後継者や団体の育成・支援に努めます。

郷土の歴史を知る上で貴重な資料となる埋蔵文化財の保護と活用を進めます。

また、文化財等の公開、展示を推進するため、展示施設の充実と情報提供を推進します。

現状と課題

合併により市域が広がる中、郷土の自然や歴史・文化財について理解を深め、地域の持つこれらの資源を活かしたまちづくりが求められています。

- 市内に残る文化財の適正な保護・保存に努めるとともに、市や県などの指定文化財の掘り起しを図るなど、文化財を活かしたまちづくりが必要です。
- 地域での生活習慣の変化や世代間交流が希薄化し、年中行事や伝統芸能を次の世代に引き継ぐことが難しくなっています。
- 市内の約400箇所の周知遺跡が、開発行為等により破壊されることを未然に防ぎ、郷土の歴史を知る資料として出土遺物等の公開・活用に努めることが必要です。
- 郷土の歴史や文化財についての理解を深めるため、村松郷土資料館の有効活用や、情報発信に努める必要があります。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
指定文化財の件数	国・県・市指定、国登録文化財の件数	44件	50件
村松郷土資料館入館者数	—	1,831人	3,000人

今後の取り組み

1 指定文化財等の保存と活用

市内に残る貴重な文化財をより良い状態で保存するため、所有者等の協力を得ながら保存・整備を進めます。また、自然、歴史、文化など地域の特色ある魅力を見出し、自然資源や文化財を積極的に活用し、講座・教室を通してふるさとの学習や地域交流を行い、市民の郷土愛の高揚に努めます。

世代を超えて継承されてきた地域の文化や芸能を後世に伝えるため、伝統的な行事や芸能を実践している団体や後継者の育成と支援に努めます。また、青少年が地域の伝統や文化に親しむ機会の充実を図ります。

- ・慈光寺参道スギ並木樹勢回復事業
- ・歴史資料所在確認調査事業
- ・歴史文化財講座事業
- ・文化財維持管理等支援事業

2 埋蔵文化財の保存と活用

開発行為等により埋蔵文化財が破壊されるのを防ぐため、事前に調査を実施し、必要に応じ発掘調査による記録保存に努めます。

また、発掘調査により出土した遺物や記録資料を、小中学校の総合学習等でふるさとの学習の教材として活用するとともに、郷土資料館等で公開展示することにより、郷土の歴史を知る機会の提供に努めます。

- ・事前発掘調査事業
- ・出土遺物展示公開事業

3 文化財の展示施設の充実

村松郷土資料館を活用し、文化財等の公開展示を行うとともに、郷土史研究家の協力を得ながら特別展等を開催し、郷土の歴史や文化財を知る機会の提供に努めます。

- ・特別展・企画展開催事業

4 情報発信の充実

郷土の自然、歴史、文化財を広く市民に周知し、理解を深め、郷土を愛する心を育むため、文化財等を分かりやすく紹介したリーフレット等の資料整備を進めます。また、市ホームページを活用し、情報提供の充実に努めます。

- ・文化財等説明看板整備事業
- ・文化財紹介リーフレット作成事業
- ・文化財デジタル化整備事業

市民等の役割及び期待

- ・地域の歴史や文化に興味を持つことが期待されます。
- ・年中行事や伝統芸能を後世に伝えることや、活動に参加することが期待されます。

序
論基本
構想基本
計画いき
いきの
泉水安心
の
泉水ふれ
あいの
泉水活気
の
泉水快適
の
泉水計画
の
推進付属
資料

施策
8

高齢者の社会参加の推進

基本方針

生涯にわたり生きがいを持って、いっきいきと生活できるまちをめざします。
 高齢者が気軽に集い、日常生活の中で自然に社会参加できる交流の場の充実を進めます。
 また、今まで築いてきた経験や知識を活かし、就労を希望する人に対しては就労機会を提供し、地域社会での活躍の場づくりに努めます。
 さらに、これからの地域社会を担う大事な人材として、団塊の世代が豊富な知識や能力を発揮できる環境づくりを進めます。

現状と課題

五泉市の平成18年の高齢化率は25.7%となり、4人に1人が65歳以上という超高齢社会となっています。高齢者が地域で生きがいをもって活躍できるよう、多くの人との交流機会や就労の場の提供など、社会参加への支援が必要となっています。

- 高齢者が気軽に集える場が不足しているため、交流の場を確保する必要があります。
- 就労意欲のある高齢者が増えていますが、ニーズに対応した就労支援が課題となっています。
- 団塊の世代が退職を迎え、地域活動への参加や、経験や知識を活かした活躍できる場が求められています。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
シルバー人材センター会員数	—	846人	1,000人
高齢者の達人バンク登録者割合	—	41.0%	45.0%
お茶の間サロン参加者数	—	8,748人	14,000人
老人クラブ会員数	—	3,097人	3,500人
高齢者のボランティア登録人数	高齢者とは65歳以上をさす	90人	180人

今後の取り組み

1 いこいの場、交流の場の充実

高齢者が気軽に集い仲間と出会うことができるよう、お茶の間サロンや馬下保養センター、老人福祉センターなど、いこいの場、交流の場の充実に努めます。また、老朽化した村松老人福祉センターの建設を推進します。

さらに、交流の幅を広げるため、老人クラブの支援を行うとともに、幼児や青少年などとの世代間交流や、地域間での交流ができる場づくりを進めます。

- ・お茶の間サロン開催事業
- ・馬下保養センター運営事業
- ・老人福祉センター建設事業
- ・老人クラブ支援事業

2 高齢者の就労支援

高齢者の技術や経験を活かした就労の場を提供しているシルバー人材センターの組織強化を図ります。

また、就労意欲のある高齢者に仕事の相談や紹介を行う「五泉しごと館」と連携を図ります。さらに、民間企業への働きかけを行い就労機会の確保に努めます。

- ・シルバー人材センター支援事業

3 活躍の場の充実

高齢者が積極的に地域の行事やイベント等に参加し、また、本人の持つ能力や経験が地域社会で活かされるための環境づくりを進めます。

さまざまな技術や知識をもった人材を登録している生涯学習の「達人バンク」や、各種生涯学習講座との連携を強化し、活躍の場を提供します。

大量退職を迎える団塊の世代の人達が、地域の活動に積極的に参加し、豊富な知識や経験を活かせるような土台作りを進めます。

- ・ごせん生き生き楽習達人バンク推進事業

4 団塊世代ボランティアの育成

ボランティアに関心のある団塊世代の人が、退職後スムーズに活動できるよう、情報の提供や人材育成の機会の充実に努めます。

また、気軽にボランティアへ参加することができ、今まで培ってきた能力や技術を地域社会で活かすことのできる環境の整備に努めます。

- ・ボランティアセンター活動推進事業

市民等の役割及び期待

- ・積極的に交流の場に参加することが期待されます。
- ・生活の中で培ってきた豊富な知識と経験を活かし、自ら活躍の場を広げることが期待されます。
- ・ボランティア活動へ参加することが期待されます。

序
論基本
構想基本
計画いき
いきの
泉水安心
の
泉水ふれ
あいの
泉水活気
の
泉水快適
の
泉水計画
の
推進付属
資料

施策
9

障がい者の自立と社会参加への支援

基本方針

障がい者が、住み慣れた地域で能力や適性に応じて自立して、安心した生活を送ることができるまちをめざします。

障がい者が、一人ひとりの障害の程度に応じて、必要なサービスを受けられるよう支援するとともに、さまざまな情報を入手し、気軽に相談できる支援体制の整備を進め、安心した地域生活を送れるための施設整備や各種助成を推進します。

障がい児が、自立するための基礎を身に付け、できる限り障がいのない子どもとともに保育や教育を受けることができる環境を整備します。

現状と課題

障がい者が地域で安心して暮らせる社会を実現することをめざし、平成18年4月に「障害者自立支援法」が施行されました。これにより、障害の種別に関係なく、共通のサービスを利用できるようになりましたが、利用者負担が「応能負担^{*}」から「定率（原則1割）」負担になったことから、負担の増大が懸念されています。

- 障がい者の社会参加機会が少ないため、障がい者への認識が低く、障害や障がい者についての誤解や理解不足を解消するための取り組みが必要です。
- 本市の障がい者数は年々増加していますが、就労割合は低く、支援体制の整備が必要です。
- 障がい児が、保育園や小中学校において、障害の程度に合わせた生活を送ることのできる環境整備が必要です。
- 障がい者が地域で自立した生活を送るため、ボランティア活動などによる支援と就労の機会の確保が重要となっています。

めざそう指標

指標名	算出根拠	実績値	目標値
		H18	H23
共同生活援助と共同生活介護 [*] の利用者数	—	27人	65人
障がい児受け入れ学校等の割合	障がい児の受け入れ体制が整っている公立保育園及び学校の割合	74.2%	100.0%
一般就労移行者数	授産施設 [*] 等から一般企業に就労した人の数	1人	4人
小規模通所授産施設等利用者数	—	66人	70人

今後の取り組み

1 地域生活支援の充実

障がい者が、必要な時に十分な介護サービスを受けられるよう、制度の周知を行うとともに、地域生活や就労などの支援の充実を図ります。

自立した地域生活が送れるよう、共同生活介護（ケアホーム）等の整備を促進します。また、ヘルパー等の派遣による移動支援事業を行うとともに、福祉タクシー利用券の交付など各種助成を実施します。さらに、日常生活用具の適切な給付や情報提供に努めるとともに、コミュニケーション支援が必要な方には、手話通訳等の派遣を行います。

- ・障害者自立支援給付事業
- ・地域生活支援給付事業
- ・心身障害者福祉タクシー利用料助成事業

2 障がい者相談・支援体制の充実

地域自立支援協議会や関係機関と連携し、必要な情報の提供を行うとともに専門相談員等を配置することにより、相談支援体制の充実を図ります。

また、障がい者への虐待や詐欺被害の防止等、障がい者の権利擁護を図るため、成年後見制度の周知及び利用を推進します。

- ・障害者相談支援事業

3 障がい児の養育と保育の充実

保育担当者や指導員の研修を行い、職員の資質の向上を図るなど、保育園や学童保育における障がい児の受け入れ体制を充実します。また、療育教室の常時開設や、障害別の支援等について検討します。

小中学校においては交流教室を推進するとともに、教職員に対し、障害についての理解を深めるための研修を行い、相談体制や機能を充実します。また、障がい児に配慮したトイレ等の施設整備に努めます。

- ・療育教室開催事業
- ・交流教室開催事業
- ・学校施設整備改修事業

4 雇用・就労の促進

ハローワーク等の労働行政機関と養護学校等の教育機関との連携を図り、障がい者の就労環境の改善について企業に働きかけるなど、就労への支援体制を充実します。

また、一般企業への就労が困難な障がい者にとって、重要な役割を果たしている小規模通所授産施設を今後も活用します。さらに、より就労支援の機能を充実した就労支援施設等の利用を促進し、生産活動や就労支援する場を提供します。

- ・障害者自立支援給付事業

5 社会参加の促進

障がい者がいきがいを持って活動できるよう、各種イベントに参加しやすい会場設定や内容等の充実を図るとともに、施設のバリアフリー化*を図ります。

また、専門的な技術や知識を習得できる講座の開催や、ボランティア体験ができる場を提供するなど、ボランティアの養成を図りながら支援体制の整備を進めます。

- ・スポーツ・レクリエーション教室開催事業
- ・ボランティア育成事業

6 障がい者施設における福祉サービスの充実

比較的軽度の障がい者の方が日中活動の場として交流や創作的活動サービスを受けられるよう、地域活動支援センター*の利用推進を図ります。

また、障がい（児）者のニーズに合ったカリキュラムの実施や安全性の確保のため、障がい者と障がい児の混在を避けた施設整備を推進します。

- ・障害者地域活動支援センター運営支援事業
- ・知的障害者地域生活支援施設整備事業

市民等の役割及び期待

- ・「障害」「障がい者」に関する認識と、理解を深めることが期待されます。
- ・障がい者支援のボランティア活動へ、積極的に参加することが期待されます。

序
論

基本構想

基本計画

いきいきの泉水

安心の泉水

ふれあいの泉水

活気の泉水

快適の泉水

計画の推進

付属資料